



キンシャサの軌跡



JICAコンゴ民主共和国事務所通信

2014年7月Vol.10

Kinky Shot! - 今月のキンシャサ -

ロボット信号機と本物の警察官



カオス極めるキンシャサの交通事情に喝を入れるべく、地元的女子大生により開発されたというロボット信号機。交差点の中央に立ち、胸と手の部分が赤と緑に点灯、腕を上下に振ってキュート☆に誘導してくれます。カメラもついていて違反車両もぼっちり記録。衝撃的デビューから一年、デザインの違いが市内2か所に登場、噂によるとルブンバシにも出張しているとか…！

さて、とある日の夕方、国民議会前にある混雑した大きな交差点のロボット信号機の前、おぼつかない道を渡ろうとしていた子どもたちを導く交通警察の姿が…！やればできるじゃん！！こんな時はやっぱり人間の警察官が活躍ですね♪

キンシャサの交通事情

Kinky Life! - キンシャサで生きる -

最近、キンシャサの街の様子が変わりました。目抜き通りを意気揚々と駆け抜ける新品大型バス。大統領の「近代化」の号令の下、数百台のバスが購入され、路線表示をつけ疾走しています。しかもどこまで乗ってもひと乗り500フラン(約50円)と市民の評判も上々。

ただ、ブンブン飛ばしボコボコ事故を起こすオンボロのミニバスはなかなかありません。そこで満を持して登場したのが車検制度の「復活」！今年5月からキンシャサを通行する全ての車両に車検が義務付けられました。5か所の指定機関で四駆車両は80ドル、有効期限(たったの)6か月！車検制度の履行を徹底しつつ、同時に交通警察による市民への迫害を減らすべく、交通警察の制服を一新(大きく番号が書かれ、個人の特定が容易に。でも良く見るとヘルメットと制服の番号が違う…どっちの番号で通報すればいいんだろう…??)

更に、製造後10年以上の中古車は輸入禁止に。少しずつでも確実に公共交通機関や車事情が発展しているキンシャサ。いつの日か、黒い排気ガスを濺々と吐き出す車両がなくなりさわやかになった空気を吸いながら、バスの路線図片手にキンシャサ観光…♪も夢じゃない！



←新路線
続々登場
とのこと



↑ヘルメットは
755、服は738



←車検証は
こんな感じ
です

Eat Kin! - キンシャサで食べる -

キンシャサでも快適デリバリー！



キンシャサでもここ数年で増えてきたデリバリーサービス。Patachoux(レバノン料理)、Opoeta(ピザ中心イタリアン)、Gekko's(和食!)など、様々なレストランがおいしい食事を運んでくれます。ランチ、ディナー以外の時間帯でも、交渉したいで熱々のおいしいごはんが届く!?

お腹をすかせた19時過ぎ、Patachouxにデリバリーを依頼。2コールですばやくピックアップ、対応も丁寧。どれくらいで来れるの〜?と聞いたところ、30分で!と。注文からわずか20分、建物が見つかりません!との電話。さらに待つこと10分、届いた!本当に30分だ!注文が一つ間違っていたり、包みを開けてみないと中身が確認できなかったりしたけれども、そこはご愛嬌!?!早速作らたてホカホカのChawarma(牛or鳥の細切り肉+キャベツ、ポテト等を薄い皮で巻いたタコスのようなもの)をパクリ!サラダはレタスの上にシャワルマに入っているのと同じ鶏肉とドレッシングをかけただけのものなので、値段の割りにちとがっかり。

デリバリーは増えてきているので、外出が面倒でもあれが食べたい!って時には気になるレストランにお問い合わせあれ☆バイクに乗った素敵なお兄さんが届けてくれる…かも?!

森林プロジェクトは森のお医者さん、というのが前回の話。さて、その診察方法は？「レントゲンの代わりに衛星画像で森の様子を確認します」なるほど。「おかしいな、という部分に実際に行って状態をみます」検査ですね。「更にそれ以外の森にも行って木の数、大きさ、種類などを細かく調べます」人間ドックかな。「集めたデータを蓄積してデータベース化、地図化します」カルテ完成！「これで、やっと今という状態なのかわかります」…ずいぶん手間ですね。「これで初めて、排出権取引を含む国際的な枠組みから森林保護のための資金を得る準備の第一歩になります」なんだか木が…じゃなくて気が遠くなってきました。

それでも地道に頑張る専門家一団。人類未踏(?)の森もなんのその。…と思いきや、ある日、青い顔をした専門家がやってきた。思い詰めた顔で「黒い石…黒い石が！」これはヤバイ。森の奥地で呪いをかけられてしまったのだろうか。「黒い石がどうしたのですか？」敢えて冷静に聞いてみる。「環境省の同僚が黒い石がなければ森に行かないと言っているのです。」はて？「蛇に噛まれた時、黒い石でその毒を吸い取る必要があると言ってます。」それは呪術？魔術？おまじない？「高価なものではないのですが、黒い石って言われても…。」ま、確かに。「でもそれで彼らが安心するなら良いじゃないですか？厄除け守りだと思って。」と言ってその場は収めたものの、とんでもなく気になる。あの土気高い専門家に青い顔をさせた黒い石。「黒い石が蛇の毒に効くかどうか教えて！」と手当り次第連絡したら、驚愕の返信が…！(続く)



(↑)噂の黒い石



キノワーズ(キンシャサっ子)も誇る「ポワ・ルー通り」ついに完工！

コン月のイベント



解体工事を追い立てる(?)舗装工事



記念碑(竣工式までカバーの下で待機中)

キンシャサで最高品質の道路と言えば？「ポワ・ルー通り！」と皆が声を揃えて即答。紆余曲折(第1号~4号連載必読!)を経て、歴代所長が頭を抱え、胃を痛めた甲斐もあり、無償資金協力「キンシャサ市ポワ・ルー通り補修及び改修計画」が2014年6月に完工しました！！

完工する最後の段階まで本当に間に合うか、日本側関係者は懸念でいっぱい。2013年年末、後は道路拡幅部分にかかる巨大な倉庫の取壊し。これはコンゴ民政府側の負担事項。「いつ工事にとかかるの？」との問いに「Bientôt(すぐだよ)」の回答。コンゴ人の「すぐ」はいつになるかわからないと訳すべき。しかし、彼らはやるときはやる！「これ以上遅れると本当に間に合わない！」と最後通牒をつきつけた途端、コンゴ側はようやく本気で走り始めた。取壊し作業を請け負ったローカル企業に対し、毎週の会議で工期を守るよう厳しく確認するインフラユニット。取壊しが終わったところから、追い立てるように側溝を入れていく北野建設。工事に着手するとあっという間に完成！

完工後、「これからメンテナンスよろしくね！」と声をかけると、「当面の費用、日本政府の予算でなんとかならない？」とあえげ何でもダメもとで頼んでくるコンゴ人。「希望は口に出すのが大事！」とのインフラ省ポワ・ルー担当者の言葉。押し返すのも事務所担当の仕事。

待つは、竣工式のみ！いつ開催されるか？Bientôt？

愛すべき？コンゴ人

編集後記



所属：インフラ省調整官補佐
氏名：テオフィル・メンテラ

できる男テオ。困ったときに相談に行けば、即決、実行。即日の書簡発出もお手のもの。インフラ大臣とはSMSで常に連絡を取り合う。

魚料理とサッカーを愛し、地元のサッカーチームのPresidentを務める。休日は、早朝サッカー、その後軽く仕事、午後はシエスタ、と休日の過ごし方も理想的。全国を飛び回って、コンゴ全土でインフラを整備中！

<☆今月のリンガラ語☆>「オロビ？」

これは良く聞きますね。キンシャサ滞在が3ヶ月以上の貴方なら、きっとわかるはず。

そして、前号の答え。「トベンガナ」=「電話してね」、が直訳ですが、「またね」ぐらいの意味で使っているものと推察されます。そう言われて電話かかってきたことない人いるもん。…あれ、嫌われてるだけ(涙)？

さて、お久しぶりのキンシャサ、お楽しみ頂けましたか？なお、今月号を最後に編集長が交代となります。今後も引き続きご愛顧のほど、どうぞ宜しくお願いします♪